

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272000332		
法人名	有限会社 大 三		
事業所名	グループホーム よもぎた		
所在地	青森県東津軽郡蓬田村大字阿弥陀川字汐干116-1		
自己評価作成日	平成25年9月12日	評価結果市町村受理日	平成25年12月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者様が御家族様と共に暮らしているような生活環境をつくり、利用者様とその御家族様が安心して過ごせるようにケアを提供します。 また、時間や規則を尊重しながらも、プライバシーに配慮し、ゆったりと穏やかな暮らしを支援します。</p>
---

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号
訪問調査日	平成25年10月16日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>地域の村民祭に、利用者職員が一年がかりで作成したねぶた絵等の貼り絵を、毎年欠かさず出展し、積極的に行事等に参加しながら地域交流を図っている。 利用者が重度化した場合の対応や看取りに関する指針を作成し、終末期の対応を明確にしており、医療機関との連携を図りながら、看取り介護を実践している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は理念の下、サービスを行う上で、管理者と共に話し合い、個々の利用者様に応じたケアができていないか確認している。	開設当初の理念を見直し、利用者が地域に溶け込めるような共同生活を維持することを掲げた、ホーム独自の理念を掲げている。理念は玄関前に掲示し、ミーティング時には全職員に周知・確認をしており、職員個々が日々のサービス提供場面で、理念に基づいた支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩等の際、近隣の人達と挨拶を交わし、気軽に声をかけ合えるように心がけている。バーベキューを主催したり、村民祭への参加等を通して、地域の方との交流を図っている。	利用者が一年がかりで作成したねぶた絵等の貼り絵を、村民祭に毎年出展する等、地域のイベントに積極的に参加している。日頃から近隣住民と挨拶を交わし、地域の小学生や老人クラブがホームを訪れる等、地域との交流が図られている。また、ホームの夏祭りではバーベキューを行い、地域住民に参加を呼びかけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学・相談に応じる際は利用者様のプライバシーに十分に配慮し、必要に応じて、パンフレットや独自に作成した資料を用いて説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議メンバーには、会議を行う意義を理解していただき、参加を促している。利用者様の近況報告を行い、メンバーの意見をサービス向上に反映させている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、予め年間計画を作成して、事前にと開催案内を手渡し、委員が参加しやすい環境を整えている。会議では、外部評価の結果や目標達成計画等の取り組みの報告を行い、意見をいただいている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には役場職員や地域包括支援センター職員に参加していただき、事業所の実情・サービスの取り組みを伝えている。役場にパンフレットを配布し、連携を図っている。	理念が記載されたホームのパンフレットや広報誌を配布したり、自己評価及び外部評価結果、目標達成計画を提出し、日頃のホームの取り組みについて意見をいただいている。運営推進会議にも参加していただき、日々の利用者の支援や運営等の問題解決に向けて連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員は身体拘束のないケアを理解している。やむを得ず身体拘束が必要な場合は事前に家族に説明し、同意を得た上で経過を記録し、保管している。	マニュアルを作成し、日々、身体拘束のないケアに取り組んでいる。利用者の状況に応じて、やむを得ず身体拘束を行う場合には、事前に書面で家族の同意を得て実施している他、実施した場合は経過を記録し、身体拘束のないケアができるように随時検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	苑独自の「高齢者虐待防止マニュアル」を作成し、全職員が互いに気をつけている。介助の仕方・言葉遣い等、虐待を発見した場合は速やかに報告することとしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	月に一度、ミーティングを実施しており、苑独自に作成した「成年後見制度と地域福祉権利擁護事業」の資料を活用し、理解を深めている。利用者様・御家族様に、必要に応じていつでも情報提供ができる体制としている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については、介護支援専門員が利用者様・御家族様にできるだけわかりやすく説明し、各サービスについての疑問に応えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や事務所前に「苦情対応システム」を提示し、利用者様・御家族様が意見・苦情等を出せるよう、また、活用していただけるように努めている。尚、意見や苦情等を受け付けた場合は、迅速かつ適切に対応している。	ホーム内に苦情受付窓口の掲示や意見箱を設置している。家族の面会時には意見や要望の聞き取りを行い、日頃から何でも言い合える環境を作っている。意見等をうまく表せない利用者には、家族の意見と日頃の会話や態度等を通じて、意見を察するようにしている。また、出された意見はミーティングでよく話し合い、より良い利用者への支援やホームの運営に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にミーティングを実践し、職員の有意義な意見を出し合う場としている。今後の方針等を意見交換し、ケアの共有を図っている。	月に1回、職員ミーティングを行い、利用者の支援や業務に対して、必ず全職員から気づきや意見を出してもらうようにしている。管理者は全職員の意見等を集約し、業務等に反映できるようにしている。また、異動は職員と話し合いながら行い、異動があった場合には職員同士で協力し合い、利用者へ与える影響が最小限となるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者・管理者は全職員の勤務状況・給与水準・労働時間を把握している。各職員が向上心を持って働けるように、環境づくりを心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一度の苑内研修、2ヶ月に一度のチェックシートによる自己評価を通して、スキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に一度の地域連携会議に参加し、状況報告・情報交換をしている。サービスの質を向上させる取り組みとして、地区の高齢者の情報が一覧できるよう管理している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様が困っている事や不安に感じている事等を見極めるようにしている。必要だと感じている事に、しっかりと耳を傾けるように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用前に御家族様が不安に感じている事・困り事等、要望に耳を傾け、問題解決の主体を利用者様に置くことを大切に考えている。コミュニケーションを図る等しながら、問題解決に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	各サービスについて、できる事・できない事をはっきりさせ、利用者様が満足できるサービスを受けていただけるように促している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様が興味を持てる話題づくり等を行い、気持ちを共感するようにしている。利用者様にはジェスチャーを交えながら意思の疎通を図る等、工夫している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様と連携し、利用者様の状況を共に把握しながら信頼関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様が大切に思っている方への電話や手紙の要望があれば、できる限りのサポートを行い、関係性が途切れないように支援している。	入居時、またはその都度、利用者や家族から馴染みの人や場所等の聞き取りを行い、把握するように努めている。本人への訪問や手紙のやりとり等の交流については、できる限りの支援を行い、関係が途切れないように取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士、ホームでの生活が円滑に進むように、一人ひとりの思いをしっかりと把握することに努め、必要に応じて間に入り、また、孤独を防ぐために声がけを促している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、施設で過ごされていた時の情報を、必要に応じていつでも提供し、相談に応じる体制が整備されている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様が描いている「望ましい生活」を見極めて、アセスメントをするように心がけている。利用様が本音を語ってもらえるように、しっかりと利用者様を理解して、信頼される人間関係を形成できるように努力している。	利用者の重度化により、買い物の依頼等も少なくなったが、日頃の会話や態度から、利用者の希望や要望、意見の把握に努めている。把握した利用者の希望や意向等は、日々の申し送りやミーティングで全職員が共有し、本人の意向に沿った支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	全職員が利用者様の個人ファイルを通して、各利用者様のサービスに至るまでの経過を把握している。個々の生活歴を尊重し、趣味等があれば、時間を設け、促している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日定時のバイタル測定で個々の正常値を把握し、異常の早期発見に役立っている。また、トイレでの排泄を継続させるべく、声かけ・定時の誘導を実践している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議・ミーティングを通し、現状報告の他、今後の方針を話し合い、御家族様の意見と合わせ、現状に即した介護計画を作成している。	常日頃から、家族からの意見や要望の把握に努め、職員全員で意見を出し合いながら、定期的に見直しを行い、利用者本位の介護計画を作成している。また、利用者の状態変化や家族の意見により随時見直し、現状に即した計画となるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌に日々の暮らしの様子や身体状況を記録している。また、伝達ノートに細かな情報等を記録し、全職員が共有できるようになっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の意思を尊重したサービスができるように対応している。また、他科受診の同行・外出時の送迎・理美容のサービス提供に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営会議を通じて、地域の民生委員、自治会長、役場、地域包括支援センターケアマネージャーと連携を図り、協力を呼びかけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様や御家族様の希望・要望に沿った医療機関を受診できるように支援している。必要に応じて、眼科、婦人科、耳鼻科等への受診も支援している。	医療機関と連携を図り、月1回の訪問診療を行っている。利用者や家族から、かかりつけ医や専門医への受診希望や要望がある場合は、希望する医療機関へ受診できるように支援している。また、診察状況等を随時家族に報告し、必要に応じて、家族の立会いができるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関との連携を24時間体制で整えており、利用者様の容態急変時や身体状況、服薬管理等について、いつでも連絡できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と利用者様に関する情報交換を行っている他、退院に向けた支援体制について家族、医療機関との連絡調整を行い、家族を含めた話し合いを行う体制ができています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所としての方針を明文化している。利用者様や家族の意向を医療機関と早期に話し合い、意思統一を図っている。	重度化における看取りの指針を作成し、終末期の対応を明確にしている。利用者や家族の意向を踏まえ、早い段階で看取りについて、利用者、家族、医療機関、ホームで話し合いを行い、意思統一を図っている。また、体調の変化があった場合は、方針について随時話し合いを行い、意思統一を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修等で学んだ知識の共有を職員間で図っている。また、ホーム独自で作成した救急法や事故予防等の対応マニュアル等を、いつでも確認できるよう目に入る場所に置いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間を想定し、定期的に訓練を行っている。災害時に備えて、食材、飲料水、物品等を用意している。119番通報、自動火災報知設備、警戒区域図等を掲示している。	火災に備え、定期的に消防設備の点検を行っている他、日中・夜間を想定した避難訓練を行っている。訓練には消防団や民生委員等も参加している他、職員が定期的に避難経路の確認・確保に努めている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様は人生経験があり、接する上での常識的かつその方にあった適切な声かけを行っている。不安に思った事や話したい事を見逃さないように、行動の観察、傾聴をしっかりと行っている。	職員は利用者に対し、年長者として常識的かつ適切な声かけに努め、日々のコミュニケーションを図っている。失禁時は羞恥心に十分に配慮し、周囲に気づかれないように自室等に誘導し、対応している。また、利用者の個人情報ファイルは戸棚に保管している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の意思を尊重し、自己決定できるように促している。意思決定ができない方には選択肢を提示したり、ジェスチャーや筆談等で理解していただき、表情や反応等で自己決定できるような場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の意思を尊重し、生活習慣や希望に沿うように、利用者様のペースに合わせることを心がけ、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の好みや個々のスタイルを尊重し、衣類を選択していただいている。季節に沿わない等の衣類を選択した場合には、自尊心に配慮した声かけを行い、一緒に選ぶ等して調整している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事時間は見守りや介助等の支援をしている。会話の内容を考え、楽しい雰囲気づくりを心がけている。また、季節感を味わっていただくために、季節のフルーツ等を取り入れる等の工夫をしている。	外部の専門業者へ、栄養士によるカロリー計算された献立作成や食材調達を委託している。苦手な食材がある場合は代替品を提供できるようにしている他、誕生会にはケーキ等を食べている。また、職員も一緒に食事をとり、さりげない支援を行っている他、差し入れていただいた山菜等の下ごしらえを利用者と一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	外部の業者から食材を取り入れ、管理栄養士によってカロリー計算された献立を提供しており、食事量や水分量を記録で残している。食事量の少ない方は担当医に報告し、指示を受けている。また、声かけを十分に行う等、食がすすむように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に合ったケア方法での口腔ケアを働きかけている。また、毎日の夕食後は洗剤を使用し、義歯洗浄を行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握・記録し、誘導している。パターンに応じて声がけや早めに誘導する等、工夫している。失禁時は、プライバシーを配慮して、自尊心を傷つけないように速やかに行っている。	利用者の排泄パターンを記録し、定期的なトイレ誘導を行い、オムツ等に頼らずに、自立に向けた支援を行っている。失禁した場合は利用者の羞恥心に配慮し、他の利用者に気づかれないように、自室に誘導する等して支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録を基に、便秘がちな方は医師に相談し、指示を仰いでいる。また、薬に頼らないように、水分量に気を配り、腹部マッサージ等にて自然排便を促す工夫を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴日や時間帯は、利用者様の希望や体調を配慮して行っている。また、同性職員の介助を希望する利用者様の意向も汲み取り、配慮している。	利用者の羞恥心に配慮し、同性職員の対応を行ったり、一番風呂等の好みに合わせた入浴支援を行っている。入浴を拒否される利用者にも、無理に勧めず、時間帯を変えたり、入浴日を変える等、柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムの把握を心がけ、眠れない利用者様には話を傾聴する等して、原因を見極め、睡眠のリズムを取り戻せるように支援している。必要に応じて、担当医に相談している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は担当制で行い、それぞれが責任を持ち、服薬時はその都度確認し、把握・管理に努めている。薬の変更時は慎重に行っている。また、経過を観察して記録し、全職員に周知しながら、担当医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の好む趣味活動やレクリエーション、食品、おやつ等を日々の生活に取り込み、心身の安定を図っている。取り込む場合は、他の利用者様に迷惑がかからないよう十分に配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	心身の状況、天気、気温等に配慮しつつ、利用者様の希望時に、職員が声がけをして促し、日常的に散歩等、外に出る機会を増やしている。	日々の会話の中から、できる限り利用者の希望を取り入れて、外出先を検討している。行事は利用者の身体状況や気候等を踏まえて実施しており、年間計画を作成し、外出支援に取り組んでいる。また、必要に応じて家族の協力を得られるように働きかけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理を行えない利用者様からは、入所時に金銭管理依頼書をいただいている。利用者様や御家族様の希望に配慮し、支援している。また、お小遣い帳で記録に残し、領収書は毎月、御家族様へ渡している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望に沿って、電話をかけたり、手紙を出す手助けをする等、支援をしている。他の利用者様に知られないように自室で行う等、プライバシーに配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は適切な温度・湿度を保てるように、全職員が気を配っている。テレビの音量等にも気を配り、騒がしくならないように、職員間の私語も慎むように心がけている。	利用者と一緒に作成した作品を掲示したり、季節の花を飾る等、家庭的で季節感が感じられる空間づくりを行っている。ホーム内は温度・湿度が適度に保たれ、日差しもカーテンで調整し、過ごしやすい環境づくりを心がけている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂ホール内では、利用者様全員が自由に過ごせる空間を作っている。気の合う利用者様同士が会話を楽しめるように、テーブルの配置等を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に、愛用していた馴染みの物を持参していただくように話している。時計やぬいぐるみ等を飾り、利用者様の心身の安定を図っている。持ち込みの少ない利用者様には、職員が一人ひとりに合った部屋づくりを工夫している。	以前から利用されていた、馴染みのある整理箱やぬいぐるみ等を持ってきていただき、家族写真を掲示する等、居心地良く過ごせるようにしている。持ち込みが少ない場合は、職員と一緒に、利用者にあった居室づくりを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様に問題が生じた際は、早急に職員間で話し合い、改善できるようにしている。ホーム内の気になる汚れや危険要因は速やかに報告し、改善につなげる工夫をしている。		